精神科専門医プログラム

定員 8名

プログラム責任者

精神科学講座

三島　和夫 教授

専門研修担当者連絡先	吉沢　和久　助教 TEL.018-884-6122　FAX.018-884-6445 E-mail　kyoshiz2@med.akita-u.ac.jp HP　https://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin/senmonkenshuupro.html

プログラムの特徴

秋田大学の精神科学講座は2023年に設立50周年を迎えたところです。その半世紀にわたる歴史は、地域医療への貢献はもちろん、モットーである“自由闊達”の下に進められた様々な独創的・先端的な研究とともに歩んできました。本プログラムはこうした歴史を土台として築かれています。

本プログラムを構成するのは拠点病院である秋田大学医学部附属病院と、県内19施設、岩手県内1施設の20の連携施設です。大学病院では精神科の基本を学べるだけではなく、高度専門医療や児童思春期の診療を経験することができ、その手厚さと専門性が特長です。救急拠点病院では急性期患者や触法患者の対応、総合病院では身体合併症管理やリエゾン精神医療、精神科専門病院では精神科リハビリテーションなど幅広い領域の経験を積むことができます。県内の精神科関連病院が一丸となって作り上げているプログラムだからこそ、多岐にわたる臨床経験を可能にしています。

また、本講座は睡眠・覚醒障害、気分障害などの病態生理や診断治療に関する先端的な研究を行ってきました。近年ではウェアラブルデバイスやAI/IoT技術を用いた睡眠・行動リズム障害に関する研究や薬剤疫学研究にも注力しており、その成果を国内外に発信しています。関心のある専攻医は早期からこれらの研究にも参加できます。

プログラムは基本的に専攻医自身の希望や能力に合わせたアレンジが可能であり、産休・育休にも柔軟に対応しています。女性医師も多く、2023年度には所属専攻医の5割が女性でした。専門医取得まで指導医が責任を持って教育にあたり、上級医がそれをサポートする体制が確立されています。

プログラムの説明

基本となる研修期間は3年間です。

1年目は基幹病院である大学病院で研修をスタートします。指導医のもとで精神科医としての基本を学びつつ、修正型電気けいれん療法やクロザピンなど難治疾患に対する高度な医療、児童思春期への専門性の高い医療を体験することができます。

2年目、3年目は連携施設全てが研修先の候補となります。救急拠点病院、総合病院、精神科専門病院など各々の施設によって経験できる症例は異なりますが、どの施設であっても専攻医は主体的に治療に関わることが求められます。例として、急性期症例であれば入院時のファーストタッチから治療導入、良好な関係作り、退院へのケースワークまで一貫して主治医として携わります。学問的価値の高い経験症例については全国規模の学会で発表することができるよう指導を受けられます。

3年間の研修修了後に精神科専門医を取得し、サブスペシャリティの修練に進んでいきます。並行して、精神科臨床において重要となる精神保健指定医資格の取得も目指します。

研修期間のどのタイミングであっても大学院に入学し、社会人大学院生として研究を開始することができます。

専門医、指導医、出身地、施設認定、関連施設 など

■専門医・指導医

精神保健指定医8名、精神神経学会専門医・指導医8名、睡眠学会専門医・指導医3名、老年精神医学会専門医・指導医2名、認知症学会専門医・指導医1名、薬物療法専門医・指導医2名、一般病院連携精神医学会専門医・指導医1名

■施設認定

精神神経学会認定施設、老年精神医学会認定施設、認知症学会認定施設、臨床精神薬理学会認定施設、日本総合病院精神医学会認定施設

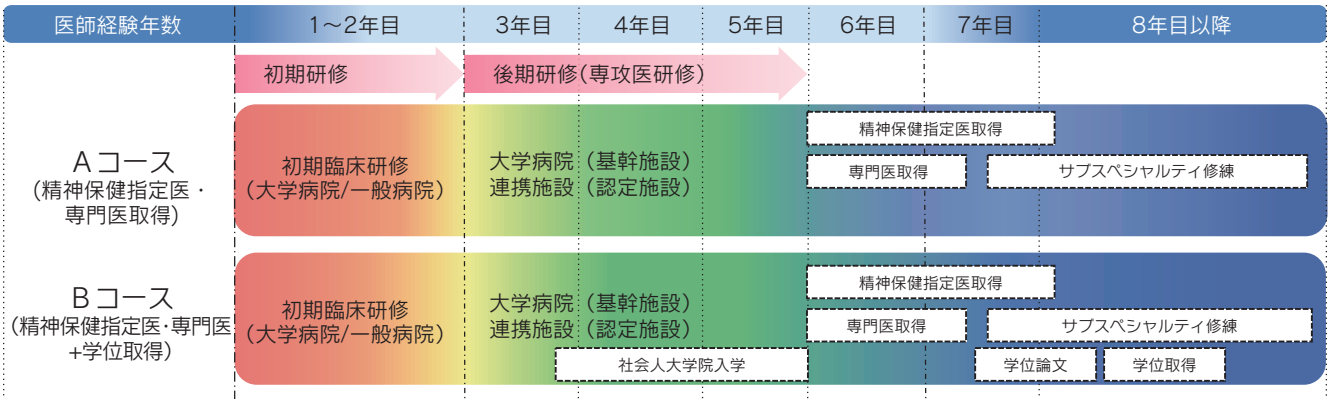
■出身大学

秋田大学、弘前大学、岩手医科大学、東北医科薬科大学、金沢大学、東京女子医科大学、神戸大学、熊本大学など

■連携病院（秋田県内19施設，岩手県1施設）

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター、能代厚生医療センター、大館市立総合病院、市立秋田総合病院、秋田赤十字病院、中通総合病院、杉山病院、今村病院、秋田緑ヶ丘病院、清和病院、秋田東病院、秋田回生会病院、加藤病院、笠松病院、協和病院、菅原病院、象潟病院、横手興生病院、南光病院

■取得までのキャリアパス



◆主要なサブスペシャルティ：睡眠学学会専門医、老年精神医学会専門医、認知症学会専門医、一般病院連携精神医学会専門医、精神科薬物療法専門医　など